

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
2000.1.1 No. 5069

2000 闘 春

戦争と殺戮の世紀

20世紀最後の年は、われわれに山ほどの多くの課題を投げかけている。

20世紀は戦争の世紀であった。およそ百年、地上では戦火が止むことがなかった。世界の植民地分割は19世紀後半以降急速に拡大し、一九〇〇年にはヨーロッパの植民地強国によって、アフリカの土地面積の90%、ポリネシアの99%、アジアの57%、オーストラリアの全てが占拠された。レーニンはこの時代の特徴を「19世紀から20世紀の境で世界は初めて分割され尽くした。今後きたるべきものは再分割であり、この獲物の分配は、足の先から頭までつべんまで武装した世界的に強大な二、三の強盗どもの間で行われ、そして彼らは自分たちの戦争に全世界をひきずり込む」と提起した。

戦争の世紀の出発点は、一九一四年にはじまった第一次世界大戦であった。第一次大戦は人類にとって初めての総力戦であり、初の総動員体制がしかれ、戦死者九百万人、行方不明者八百万人の惨状を生み出した。第二次大戦が生んだ数千万人の死者は、未だその数すら正確に把握されていない。

ある歴史学者は、「一九一四年以前には、百万の単位をもって計測される数量は、天文学を除けば、各国の人口と生産、商業、金融関係のデータだけであった。だが、一九一四年以降われわれは犠牲者

の数をそうした大ききで計算することになれてしまった」と、この時代の異常さを訴えているが、その後も朝鮮戦争、ベトナム戦争、中東やバルカンをめぐる幾度もの戦争など、砲声は絶え間なくつづいた。20世紀は、アウシュビッツを生み、三光作戦・南京大虐殺を生み、ヒロシマ・ナガサキを生んだ。

解放と革命の世紀

だが同時に20世紀は、解放と革命の世紀でもあった。人間は歴史によって生みだされ、歴史に制約されて生きていく。しかしその拘束からとびだして、新たな歴史を創りあげてゆく力をもった存在だ。一九一七年、ロシアの労働者は蜂起し、歴史上はじめて労働者・農民の国家が樹立され、革命のうねりは世界を覆った。

また、帝国主義列強による苛酷な植民地支配のもとで、「絶滅を待つマンモス」と称されたアジアをはじめ、アフリカや中南米諸国の民衆はつぎつぎと立ちあがっていった。反乱・独立・解放・革命と各民族は自らの方向を見いだしていく。

しかし革命の理念は裏切られ、スターリニズム体制のもとで多くの労働者が圧政下にくみしかれ、苦難の道を歩まざるを得なかった。われわれは大きな負の遺産を背負った。だが、労働者が自らの力で労働者国家を樹立した偉大な事実は決

して消し去ることはできない。一九八九年、ベルリンの壁は崩壊し、東欧・ソ連のスターリン主義体制は音をたてて崩れた。また資本主義体制も八七年のブラックマンデー以降、死の苦悶にあえいでいる。われわれは今、すべてを巻き込んで疾風怒濤のごとく激動する変革の時代の最中に立っている。

驚くべき末期症状

かつてマルクスが「近代ブルジョア社会は、自分で地の底から呼びだした魔物をもはや制御できなくなった魔法使いに似ている」と提起したとおりの事態が進行している。

戦後半世紀の資本主義が生み出したのは、社会や人間にとつての価値を何ひとつ生まない、全く実体のないマネーゲームが世界を覆い、それが人間を苦しめるという究極の拝金主義だ。世界には行き場のない過剰な資本、過剰な生産力が溢れかえり、資本主義は完全に成長条件を失っている。実際、株式や国債・金融派生商品など、投機のために世界を駆けめぐる金は、わずか四日間で世界全体の一年間の貿易額を上まわる。その一方で、世界で10億の労働者が職を失い、飢えているのだ。これは資本主義が行き着いた驚くべき末期症状に他ならない。

出口を失った資本主義の危機は、好むと好まざるに保わらず、資本と資本、国家と国家が蹴落とし合うような関係に行き着かざるを得ない。まさに大失業と戦争の時代だ。世界は今、その一線を踏みこえようとしている。

団結回復の時代

日本の権力者は、ガイドライン法によって「戦争をすることを内外に宣言し、産業再生法をもって、政府公認のもとに

膨大な首切りを進めようとしている。だがそれは、われわれの側から見れば、現代世界のトータルな変革という課題が、労働者階級にとつてまさに選択可能な課題として壮大な規模で問われているということだ。これまで信じられてきた価値観や社会のあり方が崩壊する状況のなかで、虫けらのように扱われようとしている労働者の怒りが溢れだすことは避けられない。大失業と戦争の時代とは、労働者が、自らが置かれた現実のなかから階級社会の本質を見、急速に団結を回復してゆく時代でもあるのだ。

壮大な組織戦へ!

もてる力をふりしぼって、大きな可能性を秘めたこの時代にたち向かおう。国鉄闘争も重大な正念場を迎えている。政府は、国労内の「改革法承認派」を使つて、一〇四七名の解雇撤回闘争に終止符打とうと画策している。

13年及ぶ闘いは、敵の思惑を打ち砕き、不動の地平を築いているのだ。われわれは国鉄闘争の勝利に向けて、JR総連を解体し本格的な組織拡大をめざす組織戦を展開する。またその決意を内外に示す事業として、新動力車会館の建設に着手する。JR体制は揺らぎ、われわれは大きなチャンスを手にしている。

問われているのは時代を変革する力をもった運動を創りあげることだ。われわれは今年、労働運動を体制の側に取り込もうとする攻撃に対し、階級的労働運動の巨大な登場をめざす組織戦に立ちあがる。怒りの声を集め、闘う労働組合の全国ネットワークを創りあげよう。全国の仲間たちと手を結び、自公の翼賛体制に断を下そう。

二〇〇〇年を21世紀をしめくくるに相応しい年としよう。21世紀に向けた動労千葉の新たな大躍進を実現しよう。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!